



発行
浮田地区コミュニティ会議
電話&FAX
0198-42-1681

タイトル画説明

右上から鬼胡桃の葉芽、池のほとりのユキノシタ、左は日陰を明るくしてくれるホスタ(ギボウシ)2種、下はプレイングハンズ(祈る手)。
絵・文(実)



マイチゴは熊の大好物、母熊が子別れに使うとか！
参加者の感想は「万歩計で6千歩、丁度かな」「先生の説明は分かり易く次も参加したい」の声。(辰)

トレッキング

岩手県環境マイスター、花巻野鳥の会会長似内功孝(ノリタカ)講師と15人で6月10日に浄土ヶ浜へ。現地は宝石の様に輝く海の色、スカッパレでした。似内先生は植物45種もの説明を行いビックリ。印象に残ったのは、ツタウルシ(毒性が強い)と木苺、ク

星空観察会



5月30日、午後5時30分から浮田振興センターに於いて、17名が参加し星空観察会が開催されました。

当日は絶好の観察会日よりとなりました。奥州宇宙遊学館より2名の講師をお迎えし、星座や宇宙について分かりやすく解説していただきました。

初めに星座シートの作成、その後、木星、金星の接近についての話を聞きました。日も沈み暗くなつて来た頃、外へ移動し、準備しておい

ていただいた望遠鏡で木星と金星、この二つの惑星を観察しました。

肉眼でも明るく輝く様子がわかりましたが、望遠鏡を通して見るとそれぞれの特徴が鮮明に感じられました。参加者同士で感想を語り合いながら星空を見上げる貴重な時間を過ごしました。

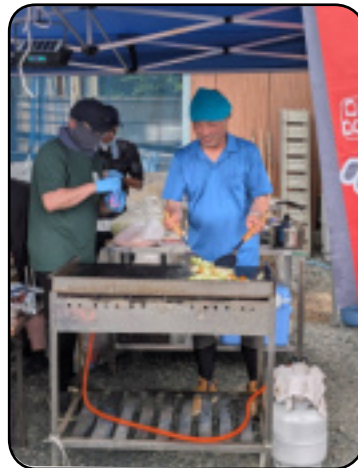
身近な星空にも魅力があることを感じ、これからも、星座や宇宙への関心を深めて行きたいと思いました。

(美)

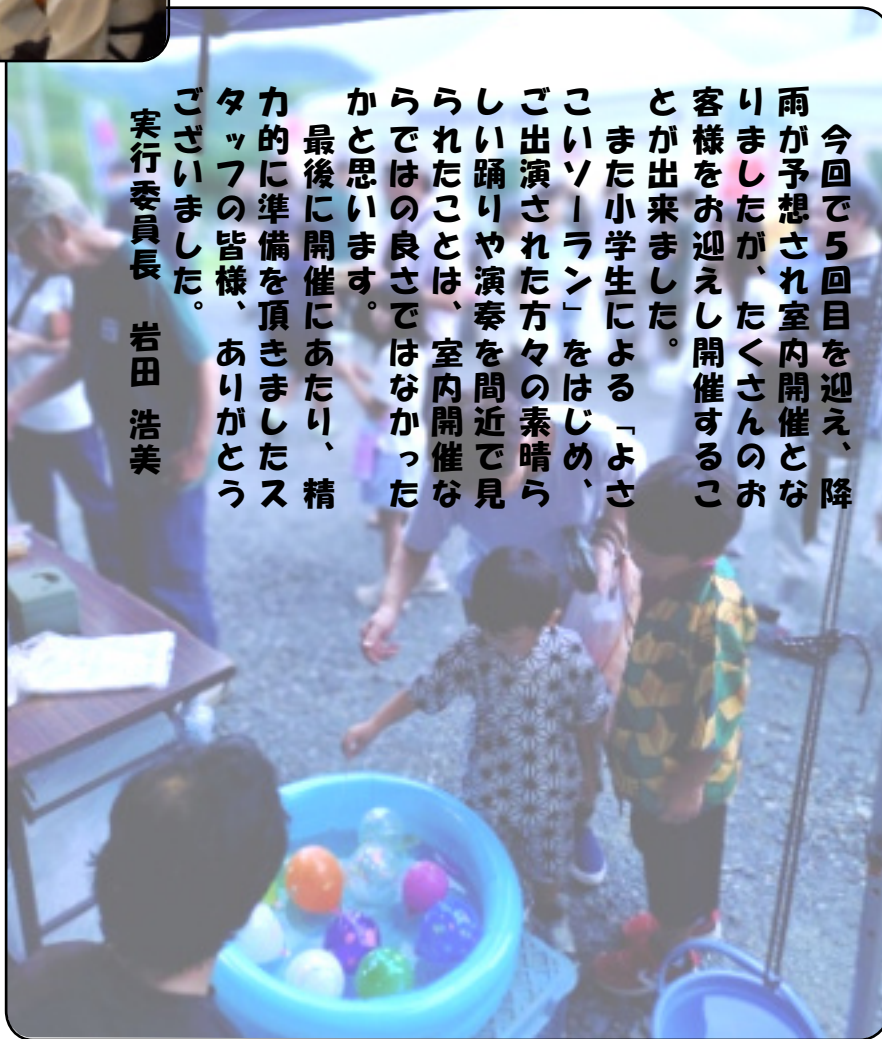


D・田舎☆サマーフェス2026

「浮田のアツい夏」大盛況で終了



8月8日フォト



今回で5回目を迎え、雨が予想され室内開催となりましたが、たくさんのお客様をお迎えし開催することが出来ました。
また小学生による「よさこいソーラン」をはじめ、ご出演された方々の素晴らしい踊りや演奏を間近で見られたことは、室内開催ならではの良さではなかったかと思えます。
最後に開催にあたり、精力的に準備を頂きましたスタッフの皆様、ありがとうございました。
実行委員長 岩田 浩美

あの人の人

日本農業新聞
優績通信員表彰

この度、下浮田在住の千葉紗也香さんが、全国大会で標記の表彰を受けました。



紗也香さんは令和2年、JAいわて花巻に入組。現在は、企画管理部企画課で広報編集等も担当して5年目。JA湯田・沢内支店職員が雪下ろし支援を行う「スノーバスターズ」を捉えた写真が「地域を支えるJAの活動



れたものです。

入組当初から広報担当志望だったそうで、早くも3年目には広報に配属され、

を適格にまとめた秀逸な1枚」と称えられ、令和7年度の年間最優秀写真に選ば

取材をして文章に表す才能を発揮していきます。これには、高校・大学と放送部で活動して得たことが生きているようですし、日頃も新聞のコラムを読んで気になる言葉は意味を調べ、表現の引き出しを増やすことを意識しているそうです。お話を伺っていると、紗也香さんが書く記事に語彙力の高さや表現の豊かさが感じられる理由に納得がいきました。

休日の過ごし方では、野球が好きで大会アナウンスを担当することもあるとか。他にもラジオが好きだったり、国内外問わず旅行に出かけるのが好きだったり。土日取組の仕事が入りお忙しいようですが、趣味でリフレッシュして、日々の業務・情報から学びを得て、スキル・知識を更新し続けている、そんな紗也香さんでした。(多)

歴史講座

南部領の城跡へ開催

生涯学習部が主催する歴史講座「南部領の城跡」が7月3日に開催されました。今回は、後三年合戦にまつわる数々の武勇伝が語り継がれている横手市の出羽金沢(かねざわ)城跡や資料館を訪れました。この出羽金沢城跡は、昨年12月に国の史跡に指定されています。



参加者21名は「後三年合戦金沢資料館」で学芸員から説明を受け、羽州街道に面し諸勢力圏の境目にあつたことから、大規模な山城として整備されたと話されていました。

この後三年合戦、奥州清原氏の内輪もめに源義家が関わって大きくなった戦いです。最後はこの金沢柵で決着し、奥州藤原氏誕生のきっかけとなった最終決戦地と言われています。

安倍氏を源頼義と源義家が倒した前九年合戦、清原氏の争いを源義家が鎮めた後三年合戦、この東北の戦いは後の奥州平泉の時代に繋がっています。(浩)



ゆるゆると

カントリーヘッジ
(羊の生垣)

胡桃の樹皮で濃茶に羊毛を染める。樹皮が剥けるのは梅雨に入る頃から梅雨明けまで、期間限定の染色を日々続ける。

枝を切って葉を外し、樹皮を剥く。枝の先端に葉芽：弧を描き内に巻くような葉の源がある。かたちに勢いがあり、エネルギーを感じる。内に秘めたる力に惹かれよくスケッチする。

このかたちに惹かれるのはなぜか：あるとき縄文土器に思い至った。大好きな縄文土器の写真集を開く。土器の口を飾る火焰も、土器表面の文様も胡桃の葉芽からのかたちに見える。

はるか昔も身近にあっただろう胡桃から受け取ったかたちだとしたら、葉芽の精気が縄文土器を力強く生き生きさせているのだ。

鬼胡桃はこの土地に多く見られる樹木。こんなにも近い鬼胡桃は時を超えて縄文の人々と私をつないでくれる。空想の翼を折るだけで。(山本実紀)

「結いの里便り」 編集委員研修

今年度の結いの里便り編集委員研修は、6月18日平泉、一関方面へ行ってきました。

まず午前中は国の史跡に指定されている平泉の達谷窟毘沙門堂へ拝観しました。ここは坂上田村麻呂が建立したとされる由緒あるお堂や、迫力のある岩壁に刻まれた岩面大佛など見どころが盛りだくさんです。



ただ境内にある池の橋を仲良しの夫婦やカップルが一緒に渡ると、祀られている弁天様が嫉妬し縁が切れてしまうという言い伝えがあるのでご注意ください。

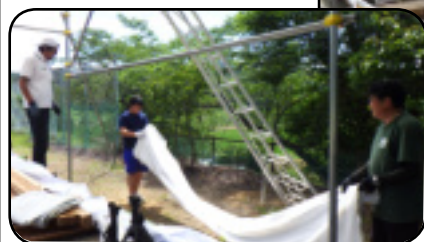


昼食後は一関厳美町の骨寺村荘園遺跡内を見学しました。交流館若神子亭のシアターで紹介映像を観た後、現地駒形根神社から景色を一望し、田園を眺めることが出来ました。

なお、この地域はガイド付きの散策コースがありますので、詳しくはコミュニティ会議までお問い合わせください。
(賢)

事務局「局だ報より」

○東和中学校2年和田蒼市(あおし)君が7月8日、9日の両日浮田振興センターの職場体験に来ました。職場体験と言われて困っている小田島事務員は「その日は東京からさき織体験が来るので休ませてください」思わず「えっ!?」これ幸いと1日目はさき織の指導助手に任命。午後はDo田舎サマーフェスのポス



ターを停留所に貼って歩く作業をしてもらいました。さて次の日は「ソーだ！サマーフェスの舞台づくりを手伝ってもらおう☆」で体験終了後に感想を聞くと「疲れました」との事でした。

会長曰く「こき使いすぎなんじゃないか」いえないえ充実していたと思います。

○今年度事業として「蜚観察会」を予定していましたが、薄暮時などの熊の出没が相次ぐことの理由で、開催を見合わせました。昨年の経験から開催日を6月20日としていましたが、今年度は蜚が少なく結果的には中止で良かったのかも知れません。

色んな講座を企画するにつけ、季節や天候に左右されることも多々ありますが、お願いしている講師の先生方もの状況でも受講者への配慮を頂いていることに感謝している次第です。
(輝)

編集後記

7月に入り、山の緑も暑さに負けず葉を広げ、庭の花も畑の野菜も楽しめる時期になりました。先日、編集委員会で頂いたもの、山の恵み「木苺」でした。味は甘さ！クマイチゴ、ツルイチゴ、クワの実、昔楽しんだ「山の食」が甦った思いでした。

今年も残暑が続くか？分かりますが、自宅周りの木の実、畑の実でジャム、果実酒、ピクルス、保存加工品作りを頑張っている方々もおり、母ちゃんパワーを感じてます。農作業している姿にちっちゃい声で「ガンバレー」と激励しています。
(二三)

編集委員長

千田 浩志(毒沢)

編集長

山本 実紀(毒沢)

編集委員

山口 友恵(宮田)

千葉 三恵(中内)

多田 辰雄(上浮田)

小田島賢志(下浮田)

渡辺 郁美(中内)

竹田美由紀(宮田)

題字

千葉 稔(下浮田)

事務局

藤井 輝雄(中内)

小田島多賀子(下浮田)